

模試と入試データ

暑い夏が終わり、二学期が始まりました。学校行事の多い二学期ですが、それぞれに全力で取り組みながら、同時にしっかり勉強をしていきましょう。

さて、中学生は、夏のしめくくりとして塾生全員が全県模試を受験しました。中3は9月4日にも新・中統模試を受験します。模試は受験指導に不可欠なものです。学校の通知表と学年順位からではわからない、さまざまな情報を与えてくれます。今回はこの模試について少しご説明しましょう。

当塾が塾生に受けてもらっている模試は、先ほど書きました2つ、愛知全県模試と新・中統模試（昨年度までの新統模試から変更）です。中1と中2は全県模試だけなのですが、中3になると2種類、計5回の模試を一年間に受けてもらいます。それぞれの模試の特徴の違いから、得られるものが違うからです。

全県模試は当セミナールーム教室で受験しますが、野田塾生を含む2万人以上が毎年受験する、県下最大規模の模試です。愛知県公立高校入試の合否判定と同じく、内申点（通知表評定）とテストの点数（いわゆる実力）の両方から志望校の合格確率を出すもので、テストのレベル、形式も実際の入試に則しており、塾生自身も受験学習の参考資料となります。

一方、新中統模試は塾外での受験になります。入試本番の練習にもなりますが、この模試は佐鳴、名進研、地域有名塾が参加しているもので、問題レベルも母集団のレベルも高いことが特徴です。合否判定も内申点は考慮せず実力のみによります。トップ高を狙う受験生が多いため、その中での位置を知るには最適です。

これら2つの模試で得られたデータをもとに受験指導を行っています。各高校に合格するためには内申点と当日点を合わせて何点取る必要があるのか、その当日点を取るためには偏差値がいくつであればよいのか、その偏差値をとるためにはどの時期にどれだけの量と質で指導すればよいのか。公立高校合格を基準に、3年間のカリキュラムはここから組みます。よく、「大手塾には受験データが豊富だから良い」ということを耳にしますが、データは有意義に活用されてこそ意味をなします。今後もしこにも負けていない第一志望合格率の高さを維持できるよう、データ収集と分析、それを活かした指導に努めていきたいと思えます。

今月二十日前後には模試結果が返ってきます。夏の頑張りの結果がそのまま現れているはずですが。特に中3は計60時間の授業を受け、76枚の確認テストをやり遂げました。その成果を期待したいですね。

最後に、昨年度公立高校入試における各高校の合格者平均偏差値と不合格者平均偏差値（第5回全県模試結果フィードバックによる資料）を記載しておきます。今後の自分の目標の参考にしてください。

	旭丘	明和	向陽	千種	旭野	春日井	高蔵寺	春日井南
合格者平均偏差値	72.3	70.8	67.2	64.6	62.1	60.5	56.6	54.1
不合格平均偏差値	68.3	67.2	64.4	61.5	56.6	55.7	51.4	50.3